

いわて生協 バスボランティア再開！



畑をつくるための土を運ぶボランティアたち。

いわて生協のバスボランティアが、3月17日に再開されました。この日は、12月11日のバスボランティアを最後に 作業が中断していた陸前高田市広田町の「ふれあいひろば」づくりや、竹駒地区の未来商店街づくりを手伝いました。バスボランティアは昨年6月の開始から数えて51回目となり、今回は33人が参加、のべ1,837人が参加しています。



金子敏明さん

●再開を、皆さんが待っていただきました

1月と2月は中断していたバスボランティア。それに対して、再開の要望が相次いでいたといいます。いわて生協の人材・組織開発部部長で、バスボランティア担当の金子敏明さんは、

「本当は継続したかったのですが、冬場になり寒い中で作業はリスクが高くなるため、残念ですが休まざるをえませんでした。しかし、最後となった12月のボランティアの際に、皆さんから『来年もやりましょう』と声を掛けていただきました。また2月の「組合員の集い」でも再開の話が出て、待っている方がたくさんいることが分かったのです。また、冬になって全国から来るボランティアが減り、被災されたから『もういらっしやらないのですか』という声をいただいていたことも、再開のきっかけの一つになりました」

今後の取り組みについて金子さんは、

「いわて生協では、特にコミュニティづくりのボランティアに取り組んでいます。家に閉じこもりがちな男性が表に出てこられるよう、土地を借りて野球場などを造ることができたらと思っています。また、陸前高田市では津波が来たラインに沿って桜の木を植える動きが始まっており、このボランティアへの参加も検討しています」と話していました。

ボランティア参加者からの声



下館希羅さん

今回で2回目の参加です。昨年の8月ごろからボランティアの募集を探し始め、そこでいわて生協のバスボランティアを見つけました。震災後初めてボランティアに参加したときは、住民をほとんど見かけず、驚きました。震災から1年がたち、ボランティア同士のつながりもできてきたように思います。これからも、このつながりを大切にしながら、力を合わせて復興支援活動をしていきたいです。



川島道雄さん

今回で23回目のバスボランティアです。ボランティアに参加した動機は、新聞の声欄に、「人が足りない」と書いてあるのを読んだことです。定年退職し、時間はあったのですが、最初は、69歳という年齢で参加できるのかと不安でした。ただ、少しでもお役に立つことができればと思ったんです。そこで、勇気をふり絞っていわて生協さんに電話したら、「何歳でも結構です。是非ご参加ください」と言われて勇気付けられました。被災から1年がたっても、震災の傷跡はそのままです。まだまだボランティアを続けなければと思いました。少しでも参加する機会が増え、復旧・復興に役立てたらと思っています。